

会 議 録

全部記録 要点記録

1 会議名	第6回姫路市教育振興基本計画審議会
2 開催日時	令和元年11月18日（月曜日） 14時00分～14時55分
3 開催場所	姫路市総合福祉会館 5階 第2会議室
4 出席者	（出席者）姫路市教育振興基本計画審議会委員14名 （事務局）教育長、教育次長、教育総務部長、生涯学習部長、総務課長、教育企画課長、教職員課長、学校指導課長、健康教育課長、教育研修課長、育成支援課長、生涯学習課長、文化財課長
5 傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴可、傍聴人1名
6 次第	1 開 会 2 挨拶 3 答 申 4 謝 辞 5 事務連絡 6 閉 会
7 会議の要点内容	以下のとおり

事務局	<p>1 開会</p> <p>第6回姫路市教育振興基本計画審議会を開会する。</p>
教育長	<p>2 挨拶</p> <p>本日は、御多用のところ、御出席いただき感謝申し上げます。</p> <p>平素は、本市の教育行政の推進に多大な御支援をいただいていることを、この場をお借りして改めてお礼申し上げます。</p> <p>さて、これまで5回にわたり、姫路市教育振興基本計画案について、様々な御意見を出していただきながら、審議を重ねていただき、前回までで、計画案としてまとめていただくことができました。</p> <p>本日は、これを答申としていただくことで、本審議会の最終回としたいと考えている。</p> <p>よろしくお願ひしたい。</p>
事務局	<p>会議成立報告</p>
会長	<p>(公開可否の決定)</p> <p>本日の審議会は、異議がなければ公開とするが良いか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>異議なしと認めて公開とする。</p>
会長	<p>(第5回会議録の確認)</p> <p>前回の会議録を確認する。</p> <p>委員の皆様には、事前に第5回審議会の会議録(案)をお送りしているが、これについて修正等、何か意見はあるか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>会議録として決定し、市政情報センターやホームページで公開する。</p>
会長	<p>3 答申</p> <p>答申に当たり、前回からの修正点等について事務局から説明をお願いする。</p>

事務局	<p>第2期姫路市教育振興基本計画について（答申）について説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回からの修正点について
会長	<p>ただ今、事務局から前回からの修正点について説明があったが、質問はないか。</p> <p>（質問なし）</p> <p>それでは、本日お配りしている答申書及び「第2期姫路市教育振興基本計画について（答申）」を答申とする。</p> <p>ここで進行を事務局にお返しする。</p>
事務局	<p>（答申手交）</p> <p>では、本審議会から教育委員会に答申をいただきたいと思う。</p> <p>本日は、会長から教育長にお渡しいただきたい。</p>
教育長	<p>この際、皆様から、これからの姫路市の教育について、教育振興基本計画の実施について、アドバイスや激励、また、審議会に御参加いただいたの所感など、一言ずつでも頂戴できれば幸いである。</p>
委員	<p>基本理念にも記載されているが、社会がどんなに変わっても一人一人がいきいきと自分の人生を生き抜いていく力を育てていくことが本当に必要不可欠なことだと思う。そのことがこの答申の中に謳われていると思う。小学校長会を代表して参加しているが、本市の目指す人間像を実現するためには、学校教育の担う役割は極めて大きいと自覚している。自分自身の将来に向けて希望を持って主体的にいきいきと生き抜くことができる子供たちの育成に力を尽くしていきたいと思う。</p>
委員	<p>この答申書を読んで、人口減少社会ということで都市間競争が激しくなっている中で、教育レベルが高いということは人口増につながってくると思うので、姫路は良い教育が受けられると考えてもらえるように、一日でも早く、学力が下回っているところを改善してもらえたらと思う。また、それらをPDCAサイクルの中で見極めて、目標の達成度がどうであるか、アウトカムをきちんと分かるようにしていただけたらと思う。</p>

委員

高校の現場は大学入試改革で心を砕き、子供たちのことを考えながら取組を進めているところである。ややもすれば、現実対応的な、表層だけの取組に陥りがちだが、この審議会に参加させてもらい、姫路市教育振興基本計画が、教育の不易と流行がバランスよく組み込まれていると気付いた。私自身も学校経営に当たる中で、まずは自らの学校現場の中で優先順位を確認し、自信を持って一步を踏み出す良い機会になった。

委員

時代とともに変化していく社会の中で、子供たちが生き抜く力を付けるにはどのような教育、社会環境が必要なのかを考えるのはとても難しいことだと痛感した。この経験を踏まえて子供たちの環境の変化にも目を配りたい。

委員

特別支援教育の立場から、審議会に参加し、勉強になったと感じている。現場を預かっているものとして、公教育として特別支援教育をやっているというところで、どうしてもお金がかかると思う。今日の午前中に中学校の地区の校長会があったが、色々な校長先生が話をされたのは人のことだった。例えば教科を持っている先生が病気で休むと後の人が来ず、苦慮しているという話があった。私の学校でもやはり色々ある。公教育でしっかり支えていくには財政的バックアップや人の確保が大事だと思う。令和2年度から5年間の計画ができたのは素晴らしいことだと思うが、ぜひ事務局には、財政側との折衝にも活かしていただきながら、より実のある計画になるよう取り組んでいただければと思う。

委員

公民館長として参加させてもらった。日々、生涯現役という人に役に立つような教育内容を計画したり、地域コミュニティを作ることを考えながら公民館事業をしてきた。今回この審議会に参加して、一つ一つの事業が施策や政策につながると実感したし勉強になった。これからも公民館活動や地域住民のために活かしていきたい。

委員

就学前、幼稚園教育の立場から参加した。様々な立場からの御意見を聞かせていただいて視野が広がったと感じている。就学前施設は無償化で揺れ動いているところだが、公立幼稚園の学校教育としてのノウハウをしっかりと次の世代に引き継ぎながら、新たな計画期間の5年の間にもきっと様々なところで幼稚園教育は変わっていくだろうが、若手職員の育成、幼児教育の質の向上、その保持を、現場の園長や教職員に引

き継ぎながらしっかり守っていききたい。

委員

社会教育委員として参加した。学校教育から離れて年月が経つが、答申の仕上がりを見て改めてすごいなと感じた。

社会教育については、姫路には美術館、文学館、書写の里・美術工芸館、文学館や水族館などがあるが、それぞれの場所で職員、ボランティアも非常に努力して年々素敵なものになっている。特に、書写の里・美術工芸館の入場者数が少ないという話もあったが、今やっている展示は、これまで以上にとっても良い展示になっているので足を運んでほしい。これからも文化拠点施設に足を運んでもらえるように努力したいのでよろしくお願ひしたい。

委員

公募委員として参加した。審議会については、ひめじ教育フォーラムの実践発表を聞いて、姫路市は海側から山側まで面積が広く、同じ市内であっても文化が異なると感じた。ここ数回も、事務局の教えを私なりに解釈しても、やっているところ、やっていないところ、学校によって違うということで、それが特色ということだとすると、地方創生推進室でやっているひめじ創生カフェのような、学校関係者と保護者をはじめとする地域の方が気軽に話し合える場があればいいなと思った。日常的に教育について考え語り合うことで、姫路市の教育はより市民に身近なものになり、次回の計画への反映、より活発な議論が生まれ、学校と地域と家庭が同じ目標に向かっていけるのではないかと考える。保護者や先生がお互いに語り合うことを遠慮している関係から一歩踏み込んだ関係づくりができると思う。

姫路市の教育については、教育の中心である学校教育において、子供たちはその多くの時間を過ごす。私が出会ってきた先生方は本当に素晴らしい方ばかりだった。先生方は姫路の全ての子供が接する高等教育を受けたロールモデルである。子供たちにとって目指すべき、乗り越えていくべき最高のモデルである。教員バッシングが盛んな風潮だが、私たちは教師の皆さんを信じ、未来を託し、そして支えていく覚悟が必要と感じた。先生の姿勢に寄り添う連携、協働が必要だと思う。先生の中には姫路の教育の目指す姿を実行されている方もいる。姫路市全域で学校と地域が本気でタッグを組んで教育に関わっていききたいと心から思った。

委員

第1期計画の審議会から姫路の労働界を代表して参加している。第1期の時も、生

まれ育った姫路を大事にする、発展に寄与する子供たちをどう育てていくかということの一貫してやってきたと思う。あれから5年経って、世の中のスピードが随分加速していることを実感する。子供を取り巻く環境が大きく変わり、これからの時代に即応する、どんなことをやっても生き抜いていけるような子供づくり、それがものづくりのまち姫路を支える原点であると改めて思うようになった。また、製造業も姫路には沢山あるが、芸術分野でも世界に誇るようなデザイナー、作家、詩人、そういった人も沢山輩出しているので、色々な世界でそれぞれ自分を生かして頑張ってくれる子供を支援していく体制を整えていきたいと思う。この計画は毎年見直していくということだが、例えば、今の教科書は大きく分厚く重たくなり、子供たちが背負っているかばんは非常に重い。文部科学省では学校に教科書を置いて帰ればどうかという不思議な意見が出ているが、タブレットで、電子教科書にすれば軽量化できるのではないかと思う。そういったこと一つとっても、不断の点検、確認、努力が必要だと思うので、これで審議会は終わりになるけれども、これからも一緒にやらせていただきたいし、応援していきたいと思う。

委員

公募で参加した。推薦が多い教育界で、公募というのは非常にありがたいし、意味は大きいと思う。この答申を読んだが、とても力のある文章力、立案力だ。立派な計画ができたと思う。

教育振興においては、どれだけ社会が発展しようが、最後は人だと思う。人権を押さえない社会は発展しない。人権がしっかりしていれば、いじめなども本来起こらないはずである。点数、勉強はいつでも挽回できる。人間として生きるために人権をしっかり押さえる必要があると思う。

また、私は、現場を冷静な目で見て評価しなければいけないといつも思っている。この計画もこれから5年間、自治会あるいは一市民として見守っていきたいと思う。

委員

中学校の立場で参加した。学校現場では、あってはいけないことがあって、迷惑、御心配をおかけしている。我々学校長を含め、教職員が襟を正してしっかりやっぴかなければならないと思う。先日、高等学校の80周年式典で、前の学校の卒業生が声を掛けてくれた。その卒業生は将来獣医になりたいと言った。なぜかというと、トライやる・ウィークで鶏をしめてさばいて命をいただいて食べたことがとても印象に残ったからだそうだ。それを聞いて私はとても嬉しく思った。学校教育は学校教育でし

っかりやるけれども、やはり、トライやる・ウィークなどで地域、企業の方にお世話になったり、子供たちを支える保護者の方もいて、教育というのは、学校教育、社会教育、家庭教育、様々な方の関わりがあって成り立っているのだと改めて認識した。

幼稚園、小学校、中学校、高校のいずれの子供たちも、21世紀に生まれ、21世紀から22世紀につないでくれる子供たちであり、間違いなく21世紀を作ってくれるのは目の前にいる子供たちである。その子供たちに力いっぱい期待を込めて我々もしっかり応援し、一緒に育っていききたい。そんな気持ちを新たにした審議会だった。

委員

私も前回の審議会から続いて委員をさせてもらった。前回同様、それぞれ各界の方の御意見を聞かせていただき、色々な勉強をした。今回も答申が立派にできて、中に書いてあることは完璧だと思うが、これを全てできるわけではない。5年前も姫路城博物館を作ればどうかという話をしたが、今回もなかなか難しいとのことである。しかし、なぜできていないのかを検証することも大事だろう。社会教育の立場で参加しているが、学校教育の現場でないところの仕事はなかなか見えない。姫路市教育委員会が文化をやっているといっても皆さんなかなか分からないところある。文化や学術は、行政からすると、研究目的ではなく文化財の利活用で観光政策に結びついていく。しかし教育委員会は学術的な研究を進めていけばいいという立場を貫いていくので、乖離が生まれるのではないかと。研究成果は成果として、それを更に発展させるには、研究する側からも、観光政策は関係ないというのではなく、お互いに干渉し合いながら、新しい観光政策のようなものを作り上げていかなければならない。そうしなければ文化財の保存と活用という政策はなかなか進展しないのではないかと。教育行政というのは単に学校教育だけでなく、社会全般に非常に強くつながっていると皆さんもおっしゃっていた。私も改めて感じて、教育委員会として積極的に進めていく必要があるのではないかと思った。

会長

6回にわたり、皆さんの協力があって良いものができたと思う。3点お伝えしたい。1点目、これまでの5年間、過去の方もきちんと検証されていると思う。その上で、環境変化、国、県の施策も入れて新しいものを作った。リニューアルできた。文章も簡潔で分かりやすい良いものができたと思う。前回の計画からそうであるが、24-25ページにあるように、計画体系図がきれいに整理されていて、一目瞭然である。リニューアルされて、一層分かりやすくなり、説明力、いわゆるアカウンタビリティが増し

たと思う。

2点目として、数値目標を設けた。事業ごとでなく、施策レベルで設けた。これは大変だと思う。委員の方からの御指摘もいただき、それに応えて修正も行った。事務局はよく考えたと思う。実はこれは大変な作業で、よくやってもらったなと思う。そして、それによって検証がしやすくなると思う。また、現状維持や下がる目標はなかなかないが、この答申にはそれがある。人口減少を踏まえたもの、あるいは現状を維持することに意味がある捉え方も当然できるので、それが明確になって良かったと思う。

3点目、委員の方からも御指摘があったが、これから5年間、5年後ははっきりいって誰にも分からない。本当にそう思う。学校教育の世界もかなり変わっていくだろう。57 ページのPDCAで修正していくと謳っているが、それ以上に国が変わっていくと思う。一つは教科担任制である。兵庫県では先行して既にやっているが、これは進んでいく。姫路市にも義務教育学校があるが、9年間を見通した授業が標準になってくると思う。教科担任制もどんどん早まっていくだろう。そして、二つ目、AIやICTも格段に進むと思う。加えてBYODが進むと思う。当面はデジタル教科書によって、先生方の指導方法が大きく変わるだろう。三つ目の大きい変化は、委員の方から御指摘もあったが、人権、インクルーシブ社会が格段に進むだろう。学校をインクルーシブ社会にすることが盛んに言われている。今、特別支援学級、通級等色々工夫されているが、同じ学校という社会の中で多様な人々が学び合うことに力を入れていて、既に現場は直面している。57 ページにある変化への対応や修正はしていかなければならないだろう。それを特に事務局には認識してもらえたらと思う。今後の5年間の実行に大いに期待したい。

教育長

4 謝辞

先ほど「第2期『姫路市教育振興基本計画』の策定について」を答申いただいた。6月26日の諮問以来、第1回審議会から本日の第6回審議会まで、長期間にわたり、本市の教育振興に関する基本的な計画の策定に当たり御尽力いただいたことに、教育委員会を代表して心より感謝申し上げます。

今後、少子高齢化やグローバル化が進む中、人間ならではの感性や創造性を発揮し、主体的な学びや多様な人々との協働を通じ、豊かな社会と新たな価値観を生み出せる人間の育成が求められている。そのような中、答申において、「ふるさと姫路の未来を

ひらく人づくり ～自立し、認め合い、つながる教育を目指して～」を、次の5年間の姫路の教育の基本理念とされた。

これは、第1期計画を継承しつつ、特に副題については、自立した人間として主体的に判断し、多様な人々と互いを認め合いながら協働し、新たな価値を創造できる人を、生涯にわたる育ちと学びの連続性や、他者との関係性などのつながりの中で育成する教育の振興を目指すといった意志が表れているものと感じている。

また、今回新たな要素として各施策の指標の設定がある。施策の推進に当たって、当該施策の効果を検証し、より効果的・効率的な施策の立案に活かしていくサイクルを確立するためには、この指標が重要であると考えている。

本日をもって審議会は終了となるが、会長様、副会長様をはじめ、委員の皆様におかれては、たくさんの貴重な御意見を頂戴し、感謝申し上げます。

この後、本日いただいた答申を基に、教育委員会として計画を策定し、これからの学校教育、社会教育の充実に向けて、各施策に邁進していく所存である。

今後とも、本市の教育の振興に向けて、一層のお力添え、御指導をよろしくお願い申し上げます。

事務局

5 事務連絡

2点連絡させていただく。

まず1点目は今後の予定だが、このあと、答申を元に教育委員会として計画案を策定し、12月から1月にかけての約1か月間、パブリック・コメントを募集する予定である。その際、委員の皆様には、パブリック・コメントの詳細について、郵送などによりお知らせしたいと考えている。

そして、このパブリック・コメント手続を経て、今年度内に計画を策定する。策定した計画についても、皆様にお届けしたいと考えている。

2点目、本日の会議録については、近日中に事務局で会議録案を作成し、委員の皆様へ郵送するので、内容の確認をお願いしたい。

詳細については、郵送する文書でお知らせする。

事務局

6 閉会

以上で姫路市教育振興基本計画審議会を終了する。